

都道府県別賞一等

贈り物

兵庫県 兵庫県立大学附属中学校 二年生

横山 日菜子

私は、生命保険の作文を書くにあたって、初めて私たち家族が生命保険のおかげで生きていることを知りました。大げさだともうかもしれないが全然そんなことはありません。

私の父は、私が産まれる前に胃ガンで他界しました。しかし、私は日常生活で何か特別苦労を感じたことはありません。むしろ、自分のやりたいことを何でもやらせてくれて、本当にめぐまれていると感じます。そんな生活が送れているのは、父の生命保険のお金を母が活用し、上手に回してくれているからです。生命保険に入っていなかったら、こんな生活は送れていないかもしれません。母は今よりもっと苦勞して、しんどい思いをしていたかもしれないし、私や姉もしんどい思いをしていたかもしれません。それに、母は私たちのために様々な生命保険を契約してくれているのだと教えてくれました。

そもそも生命保険とは何なのか。私はよく知りませんでした。この作文を書くにあたって母に生命保険について色々たずねてみました。まず、生命保険といっても一概に死亡保険などの私が生命保険と認識しているものだけではないことを知りました。私たちの大学受験のためのお金の保険やドルの運用なども生命保険になるそうです。基本的には、生命保険会社が広く一般に販売している商品全般を生命保険だと認識していいと私は考えています。例えば、医療保険、ガン保険、こども保険、年金保険などがあるそうです。こども保険などは、大学受験などをするときのために、必要になるであろうお金を使ってしまうくないようにしておくという感じの印象です。また、医療保険やガン保険などは、「もしも」のときに、契約分のお金がもらえるという印象です。しかし、「もしも」の事なんてあるのかな。という人の方が多いのではないかと思えます。最初にも書いたように私には父がいません。それは、母にとっては、その「もしも」の事だったと思います。父が生命保険に入っていなかったら、小さいころからかわいい服なんて着られていないし、旅行に行っておいしいご飯をたくさん食べることも、今住んでいる家に住むことも、中学受験をして、新しい自分を見つけることもできませんでした。そして母が父が残してくれたお金を私たち姉妹のことを大切に思って、投資や生命保険の契約をしてくれたことを私は本当に幸せだと思います。小学生のときは、本当に自分自身に自信がなく、やりたいことをやりたい、いやなことをいやだと言えませんでした。そして楽

第61回中学生作文コンクール

しいことも心から楽しいと言えませんでした。しかし、中学受験をして、新しい生活を送ることができるようになりました。自分の目標にまっすぐに進めるようになったし、楽しいことも、大切な友人もできました。それもこれもすべて母と父の支えのおかげです。

生命保険は、私たち家族の命を支えてくれているものです。そして私にとっては、超臆病な私を、ちよつと臆病で明るくて元気な私に変えてくれる、私の人生に分岐点を与えてくれた大切な父と母からの贈り物です。